

社会保険労務士法人佐賀事務所
株式会社 佐賀人事総研

動画視聴用QRコード集



下記より動画をご視聴いただけます



北極フルマラソン大会

2025年7月に代表佐賀が参加、完走いたしました！

https://www.youtube.com/playlist?list=PLTnnGIF9Fb0jff_Lm9ZMcglx0lgzsaY1B



困り事相談

佐賀事務所が提供する4つの基本サービス

https://youtu.be/_zNjqcog6QE



行動経済学

人間心理を活用した「行動経済学」を人事マネジメントにどう活かすか？

<https://youtu.be/HQMrjWqj-q4>



社員不正・問題社員対応

不正対応、問題社員対応の③マニュアルです

<https://youtu.be/qV1Wq7klidfl>



佐賀社労士セミナーPV

テロップ入り新最終版

<https://youtu.be/zJIVUYqXUEU>



その他（佐賀事務所HP）

佐賀事務所のホームページです

<http://www.saga-sr.com/aboutus.html>

労使相愛を実現する会

～伝説の社労士事務所と呼ばれたい～

社会保険労務士法人 佐賀事務所

株式会社 佐賀人事総研

TEL.03-5249-3326

2026
February
2月号
第92号

1 初ブログをSNS上で発信して19年…

2 「アマゾンジャングル230キロマラソン」
3 にエントリーしました。

4 動画視聴用QRコード集

発行元：社会保険労務士法人 佐賀事務所 株式会社 佐賀人事総研 赤羽の社労士ブログ <https://ameblo.jp/saga-sr/>

ブログ更新
累積回数

4650回



断酒してから

2721日



断煙してから

7469日

皆様、いつもお世話になっております。

初ブログをSNS上で発信して19年。更新回数5,000回超えは目前です！

直近の月間アクセス総数は5,330。投稿数は27回なので、1投稿が約200人に読まれている計算になります。芸能人やインフルエンサーと比較すれば小さく見えますが、「BtoB社労士業」というジャンルでは大きな数字です。専門特化型の個人ブログで毎記事約200人の訪問は、「ニッチメディア」としてひとつの完成形とも言えます。

アクセス先を分析すると、「たまたま検索で引っかった人」ではなく、毎日チェックしている読者で構成されていることが見て取れます。「いいね！」が一桁台（寂しくもありますが）というのもその証左。私のブログは情報の消費というよりも、「観測している」がその理由のひとつと視ています。

19年の継続は現在進行形。

直近の「27投稿／31日」の頻度はすでに過去の実績ですが、継続力をマインドの高さの物差しにしている私としては納得の投稿回数です。ほぼ毎日思考を言語化することに向き合っているくつもり……。量も大事ですが質にもこだわり、読者の皆様の心に響く発信を心がけてまいります。

引き際の美学。

対（たい）対人に関して「恋々・恋着・女々しく」する様を私が見せることは、まずありません。思うこと自体もないですが、仮に思ったとしても見せることはありません。

引き際がきれいなのは「尽くしたという自負」があるからです。

負けを認めるという潔さも、美学の礎になっている気がします。

ケースによりけりですが、代わりはいくらでもいるという自（過）信とプライドがグラデーションすること、ままあります。

かたや自分自身に対しては一切引くことができない。ゼロハック思考一択、選択択一も一本。これのみの人

生で53年と8ヶ月、飛ばしてきました。

ギブアップは絶対許されないという引けない美学。サハラと南極はギブアップと紙一重でしたが、この思考（＝美学）が功を奏した典型的なく成功事例です。

アマゾンジャングル230キロマラソン完走者の話を訊く機会があり、9割は引く覚悟が必要だと心構えを教わりました。

言わずもがな、引く覚悟がないと「死」を意味すると直感的に感じ取りました。

ペルー・クスコ上空、2026.05.31早朝、標高4000mからスタートします！

参加総数は60名。サハラが1,100名、それでもナイトステージでは一人旅になりました。砂漠の孤独は恐ろしく、それまで経験したことがない恐怖心を抱きながら92キロのコースを走った記憶が鮮明に蘇ります。

ジャングルの道なき道を一人で走る孤独との戦いが私を待ち構えています。経験済みの恐怖はすでに克服と、私の中では課題になっていません。経験を活かると、勝負どころで勝利を掴む可能性が著しく高まるはず。自分史上最高の状態でスタート地点に立つため、朝の黄金時間を主に「向上」に全力を尽くします。

ギブアップは、体ではなく「脳」がストップをかけるもの……。

朝トレでは「脳」がストップをかけづらくなるようなトレを果敢に課したいと思います。

黄熱病の注射（東京医科歯科大学病院）を皮切りに狂犬病・破傷風等々、いくつも予防接種を予定しています。ブログでもしかとアップしていきますので、どうぞアクセスしてください。「いいね！」も大歓迎です。

「充実」を合言葉に、マイベストペースで飛ばして行きましょう！

佐賀 豊



伝説の社労士の視点から提言させていただきます

「アマゾンジャングル230キロマラソン」に挑戦します!

今月のテーマは「挑戦の気」と「狂気の気」です。挑戦に「気」がつくことにピンとこないかもしれませんが、今の私の思いを綴ってみます。

どの会社も余裕がなく、将来に希望を持つことができない……

今年は社労士を開業して22年目を迎えます。22年を経て改めて思うことがあります。それは日本経済がすごく厳しくなっていること。顧問先の中小零細企業（大企業の顧問先もあります）を見ていると、窓際族という言葉がなくなって久しいように、どの企業も余力がなくなっています。

本当にどの企業も余裕がなく、将来に希望を持つことができないと感じられるのです。22年前とは状況がまったく違います。おかげさまで私の事務所は昨年、新規の顧問契約を10法人以上いただくことができましたが、これは本当に全力の全力を尽くした結果です。1件の契約をいただくのも大変なのが現実です。

顧問契約とは、私に対する信用を買っていただくこと

厳しい環境という圧を受けるなか、私が大切にしているのは「気」を高めることです。その気とは、まずは「挑戦の気」です。挑戦していかなければいけない。仕事にしてもプライベートにしても日々挑戦しようとする姿勢にこそ、「本気の気」は宿ると思っています。自分自身が本物でないと、「人の気（＝人氣）」を獲得することはできないのです。

私の業務は何か形のあるものを納品する仕事ではありません（就業規則という形のあるものもありますが）。私に対する信用を買っていただくことになります。したがって、人の気を獲得し得ないと顧問契約を得ることもできないと考えています。挑戦の気を通じて本物の気を自分自身に宿らせて、最高経営責任者や経営陣の気を引く。気だけではなく「人氣」も引き寄せる。それができないと顧問契約の獲得はかなわないのです。

自分の信念で動き、自分の時間を大切にする

挑戦しない、顧問先も今のままでいいという選択をしたとします。すると、厳しい環境の圧に根負けする結果になるでしょう。ひと昔前の日本であれば、挑戦しなくても現状維持を保つことができたと思います。しかし2026年、令和の時代は挑戦しないと緩やかな後退しかないのです。

人は、一度つかんだものは手放したくないと考える生き物です。マイペースでは現状維持が難しい時代は、挑戦しないと自分がかんがだものを手放すことになります。だからこそ、挑戦の気を高めて自分を向上させる時間に向き合っていないと、令和の社労士業は勝ち残りも生き残りもかなわない。私はそう考えています。

自分を向上させる時間とは何か。自分の信念で動いて、自分の時間を大切にする。やりたくない仕事は排除する。すべての時間を自分を向上させる時間にあてがい、挑戦の気をさらに高めていく必要があると思っています。

自分が向上する時間を過ごし、挑戦の気を高めていく

顧問先にしても、弊社のスタッフにしても、価値と共存以外では人を引き寄せることはできません。顧問先を獲得するには、自社の人材をまずグリップして優秀なスタッフが辞めていかないようにする必要があります。そして、新たな人材を獲得する。価値と共存以外では人を引き寄せることができないのであれば、つねに自分が向上する時間を過ごし、挑戦の気を高めていく必要があるのです。

狂気的な挑戦の結果、顧問先が爆発的に増えた

続いては「狂気の気」です。挑戦の気がベースになりますが、その挑戦が少し狂気的というか、周囲の理解や常識が通用しない、理屈では理解できないような行動が「狂気の気」です。狂気の気は挑戦の気と違って、不可欠ではないとは思いますが、**狂気の気には挑戦の気以上に、そして比べものにならないくらいに他者の気、人氣を巻き込む力があるのです。**

11年前、私はサハラ砂漠250キロマラソンに出場しました。世界一過酷と言われていたレースで、250キロを1週間バックパッカーつで走ってきました。**この過酷なレースを完走した年は、爆発的に顧問先が増えました。**そうした経験を踏まえると、挑戦の気の上に狂気の気が成り立つと考えられます。

もう一度サハラに行くしかないという思い……

サハラ砂漠250キロマラソンを完走したことで、私の中では命を懸けた冒険は終わったつもりでいました。本当に厳しい体験で、あれほどのレースはもう二度とできないという思いもありました。しかし、先月の事務所ニュースで綴ったようにサハラに置き忘れてきたプライド、それは喉の渇きがとれなかったこと、サングラスがかけられなくなったという現実があります。

私は、今この瞬間を大切にしています。そんな私の中でもこの10年、**あのサハラの恐怖と、完走はできたけれども自分が不甲斐なかったことが忘れられませんでした。そして、もう一度サハラに行くしかないという思いが募ってきたのです。**

「アマゾンジャングル230キロマラソン」にエントリー!

サハラが世界一過酷なレースとされていましたが、最近ではアマゾンジャングルマラソンが危険と言われるようになりました。距離は230キロでサハラより20キロ短いのですが、**ウルトラトレイルのランクではサハラと同格以上で世界一とされています。**サハラよりかなり大変で、参加者も20分の1くらいです。

サハラに置き忘れてきたプライドをアマゾンのジャングルで取り戻せるのでは……。喉の渇きがとれ、サングラスもかけられるようになるのでは……。昨年12月9日に意を

決して「アマゾンジャングル230キロマラソン」にエントリーしました。今この瞬間に生きながらも、サハラで置き忘れたプライド、この借りは絶対に返さなければいけないと執着する自分がいたからです。

採用に勝ち、人材のグリップに勝つためアマゾンに挑む

狂気的な挑戦であることは間違いありません。それでも11年前の挑戦と同様に他者を巻き込む力、ポテンシャルが強く感じられます。11年前はまだ子供が小さく、自宅のローンもかなりあり、お金を稼ぐ必要がありました。もちろん、今もその必要はありますが、顧問先は当時より3倍近くに増えています。

今、人の気を引きつける必要があるとすれば、顧問契約を取ることもより難しい人材の獲得です。**世界一過酷なジャングルを取ることによって、挑戦の気と狂気的な気をしっかり表明することによって、採用に勝ち、人材のグリップに勝つ。**こうした思いを抱いてアマゾンに挑みます。

「協力とは言えないけれど許す」という妻の言葉

妻には遺言公正証書を残していくのですが、「私は理屈ではまったく理解できない」と妻は言っています。実際、アマゾンでは五体満足で戻れなかった人もいます。現在、事務所は顧問先に恵まれ、スタッフに恵まれ、うまくいっています。うまくいっているタイミングだからこそ、捨てるものがないなかでチャレンジすることで狂気の気をより高められる。妻にはそう話しましたが、私の思いは伝わりませんでした。

11年前の挑戦は、妻にも強烈なインパクトがありました。**ボロボロの状態に戻ってきた私を妻は成田空港まで迎えに来てくれました。その時の姿を今でもしっかり覚えているので、今回も「協力とは言えないけれど許す」という会話がかわされました。**

エントリー後、私の体力と気力は著しく向上した

アマゾンに挑むには、事前のマラリアなどの疫病対策が必須です。ピラニアがいるアマゾン川の中を走るコースが10キロくらいあるとのこと。抗生物質も必需品で、黄熱病や狂犬病対策のワクチンも射っていきます。新たな情報を得るたびに身がすくむ思いがします。

一方で、**ジャングルマラソンにエントリーしてから、体力と気力が著しく向上したと感じられます。人は目標や夢が大きければ大きいほど、ポテンシャルが発揮される生き物なのでしょう。**

体力と気力が40パーセントくらいアップし、朝のトレーニングでも疲れの度合いがかなり少ないのです。これは勘違いではありません。14年前の北海道のオホーツク100キロマラソンに出場した時、50キロ走ってもほとんど疲れませんでした。事前にハードなトレーニングをしたわけで

はありません。人間は距離が伸びると頑張りが違ってくる、ポテンシャルが高まるのです。アマゾンは230キロです。近年、出場した北極も南極もフルマラソンの42キロでした。サハラ以降は42キロ以上を走っていません。それがいきなり230キロを決めたのです。体と気持ちがいっぱいに反応しています。

根負けしないように挑戦の気を大事にしてほしい

経営者は、労働基準法の休憩も休日も適用除外です。法律の世界では経営者は人間ではないと、私は思っています。経営者にとっていちばん危険なのは根負けすることです。根負けするとは、精神的な病気になることです。私自身、根負けしそうになる時もあります。苦しいと感じることは多々ありますが、根負けしそうになるだけで根負けすることはありません。

私にとって挑戦の気と狂気の気とは、「根負けしちゃうと事業の命運がつきますよ」という励ましのエールなのです。令和はマネージメントが本当に難しい時代です。**経営者は根負けしないでください。挑戦の気を大事にしてほしい。社長に挑戦の気があると、その気が本物であると、よいことがたくさんあると思います。**従業員から、そして営業先から人氣が得られるはずですよ。

挑戦しないと緩やかな後退が待っているだけ

挑戦しなくても現状維持が可能な時代は、とうの昔に過ぎ去りました。挑戦しないと、緩やかな後退が待っているだけです。緩やかというのがポイントで、真綿で締められるように後退していきます。カエルをいきなり熱いところに入れると飛びあがりますが、徐々に熱くしていくと茹であがってしまいます。緩やかに落ちていくことの危険性を肝に銘じてください。

私の狂気的な挑戦に関しては傍観して応援していただければありがたいのですが、経営者は厳しい環境に根負けしないよう、ぜひ挑戦の気を持ってください。

サハラでの借りを返すためにもジャングルに挑戦してきます。今月はその意気込みと思いを綴ってみました。

